

No	感染症(PT)	出典	概要
198	サルモネラ	CDC/MMWR 2007; 56(12): 273-276	2006年に米国の州保健局は農業飼料店で購入したヒヨコおよびその他の幼い家禽と接触したヒトにおけるサルモネラ感染の3件のアウトブレイクについてCDCに報告した。このアウトブレイクに関連したトリの源を孵化場まで追跡し、トリからヒトへのサルモネラ感染伝播を防止するための勧告を提供している。
199	チクングニヤウイルス感染	CDC/Traveler's Health 2007年9月11日	イタリア保健当局は最近、イタリア北東部のRavenna地方における166例のチクングニヤ熱症例(内27例は確定例)を報告した。検査の結果、同地方の蚊が感染を媒介していることが明らかとなった。ヨーロッパにおいて蚊によるチクングニヤウイルス伝播は今回が初めてである。同地方への旅行者は蚊に刺されないように準備し、また、チクングニヤ熱の症状に注意を払うべきである。
200	チクングニヤウイルス感染	Emerg Infect Dis 2007; 13: 147-149	最近マレーシアでは、7年間検出されていなかったチクングニヤウイルス感染が再興した。分離ウイルスのゲノム配列は、1998年のアウトブレイク時のMalaysian分離ウイルスの配列との相同性が高かった。この感染の再興は、他のインド洋諸国における流行とは関係ないが、マレーシア特有のチクングニヤが流行する可能性が浮上している。
201	チクングニヤウイルス感染	Emerg Infect Dis. 2007; Jan; 13(1):147-9	最近マレーシアでは、7年間検出されていなかったチクングニヤウイルス感染が再興した。分離ウイルスのゲノム配列は、1998年のアウトブレイク時のMalaysian分離ウイルスの配列との相同性が高かった。この感染の再興は、他のインド洋諸国における流行とは関係ないが、マレーシア特有のチクングニヤが流行する可能性が浮上している。
202	チクングニヤウイルス感染	Eurosurveillance 2007; 12(9): E070906.1	チクングニヤ熱は2005年以来、大規模な流行がインド洋諸島とインドから報告されているが、これまでヨーロッパ地域内での蚊による感染伝播は発生していなかった。2007年8月にイタリアのエミリア・ロマーニャ州ラヴェンナ県衛生当局は異常に多数の発熱患者発生を検知し、臨床・疫学調査を行った。血清学的検査およびPCR法でチクングニヤ熱と確定された。更にヒトスジシマカからもPCR法によりチクングニヤウイルスが確認された。2007年9月4日までに合計197名の患者が報告されている。
203	チクングニヤウイルス感染	Lancet 2007; 370: 1840-1846	イタリア北東部の隣接する2つの村で原因不明の発熱性疾患患者が多数報告され、ヒトおよび蚊由来の検体を分析した結果、チクングニヤウイルス(CHIKV)が原因であることが明らかとなった。2007年7月4日から9月27日の間に205例のCHIKV感染症例を同定した。村の親戚を訪問した時に発症したインド出身男性が初発症例と推定された。系統遺伝学的分析により、イタリアのCHIKV株はインド洋諸島での初期のアウトブレイクで分離された株と高い相同性を示した。
204	チクングニヤウイルス感染	Pediatr Infect Dis J 2007; 26: 811-815	チクングニヤウイルス感染が大流行したレユニオン島の5つの新生児医療部門で同ウイルスの母子感染を調べるため、後ろ向き記述的研究を実施した。母親は出産時に徴候があったか又は新生児が出生初日に発病したかをスクリーニングし、新生児38名を登録した。無症候の2名を除き、全母親が周産期(分娩4日前~1日後)に症状があった。全新生児が発熱(79%)、疼痛(100%)などの症状を示し、脳脊髄液のPCR法は24名中22名で陽性であった。高い罹患率の周産期母子伝播の可能性が初めて示された。
205	チクングニヤウイルス感染	PLoS Pathogens 2007; 3: 1895-1906	2005~2006年にレユニオン諸島でアウトブレイクしたチクングニヤウイルス(CHIKV)感染は、エンペロープ蛋白遺伝子の変異株(E1-A226V)が関係していた。この変異の、ネッタイシマカおよびヒトスジシマカにおけるCHIKV適合性に対する影響を調べた。その結果、CHIKVのヒトスジシマカに対する感染性が有意に増加し、哺乳動物への伝播がより効率的になることが明らかとなった。通常のベクターであるネッタイシマカがいない同地域でCHIKVが大流行したのはこの変異が原因と考えられる。
206	チクングニヤウイルス感染	ProMED-mail20061126.3359	昨年、シンガポールに留学し、最近帰国しTaipeiに到着した13才の台湾人学生がチクングニヤであることが確認された。台湾において初めての症例である。
207	チクングニヤウイルス感染	ProMED-mail20061129.3380	スリランカ政府は、Jaffnaにおいて急速に伝播しているウイルス性発熱はチクングニヤ熱であることを確認した。5,000例以上が感染していると疑われている。
208	チクングニヤウイルス感染	ProMED-mail20070124.0320	2007年1月24日、保健当局は、スリランカから日本へ帰国した30代女性がチクングニヤに感染していることが確認されたと発表した。日本人がチクングニヤに感染したと確認されたのは日本において初めてである。

No	感染症(PT)	出典	概要
209	チクングニヤウイルス感染	ProMED-mail20070531.1757	2007年5月31日、インドKeralaで約25,000人がチクングニヤの症状で入院していると保健当局は発表した。Kottayam, Pathanamthittaなどの地区では数千人以上が外来治療を受けている。この病気は蚊により拡がるが、南部地方ではここ2~3週間に蚊が大発生した。食料配給ならびに蚊帳や噴霧器の提供が承認された。
210	チクングニヤウイルス感染	ProMED-mail20071209.3973	米GalvestonのUniv. Texas Medical Branchの研究者らが、インド洋のLa Reunion島における原因不明の疾患の原因を発見したことを発表した。研究者らは、266000例が感染し、少なくとも260例が死亡した流行疾患は、チクングニヤウイルスの単一の突然変異によるものであり、このウイルスは、以前はウイルスを保有していることが知られていなかったAedes albopictusにより伝播されることを証明した。
211	チクングニヤウイルス感染	Public Health Agency of Canada/Infectious Diseases News Brief 2007年10月5日	イタリア北東部でチクングニヤ熱のアウトブレイクが報告された。2007年7月4日-9月14日に確定例101例、疑い例133例がRavenna州で報告された。これはヨーロッパにおいて土着の感染伝播が初めて記録された事例である。
212	チクングニヤウイルス感染	The Hindu News Update Service 2007年5月31日	インドKerala州において約2.5万人がチクングニヤの症状で入院していると保健当局が述べた。熱などの症状がある数千人以上が外来治療を受けている。この病気は蚊によって広まるが、この2、3週間で南部地方では蚊が大発生した。政府は病気に罹った貧しい家族に1週間分の配給をすることを承認した。また蚊帳や噴霧器が供給される。
213	チクングニヤウイルス感染	The Jakarta Post 2007年3月7日	インドネシアのBekasiにおいてチクングニヤが98例診断された。患者数は更に増加すると予想される。健康センターの話では、先月初めの洪水後、疾患は急速に拡大している。
214	チクングニヤウイルス感染	Wkly Epidemiol Rec 2006; 81: 409-416	2006年2月から10月10日に、WHO Regional Office for South-East Asiaはインドの8州/地方の151地域がチクングニヤ熱による影響を受けたと報告した。インドから125万人を超える疑い例が報告された。
215	デング熱	ABC Newsletter 2007年7月20日	オーストラリアのクイーンズランド州北部におけるデング熱アウトブレイクにより、赤十字血液サービスは流行地に滞在した人から供血された血液製剤の廃棄を余儀なくされた。局地的アウトブレイクは3月末にSouth Townsvilleで始まったが、5月14日以降、新規症例は記録されていない。赤十字のスポークスマンによると、供血以前に同地を訪れた供血者由来の赤血球・血小板は破棄するが、血漿は使用できるとのことである。供血制限は、アウトブレイクの終息が正式に宣言されるまで継続される。
216	デング熱	Am J Trop Med Hyg 2007; 76: 1182-1188	2004年8-10月に中国Ningboでデング熱のアウトブレイクが起こり、報告された83例中68例が確定された。2例からデングウイルスセロタイプ-1が分離された。アウトブレイクはタイから戻った旅行者に関係しており、遺伝系統学的分析によりNingbo分離株はタイ由来株に密接に相関していた。無症候性住民における特異的IgGの保有率が流行地域では対照地域に比べ有意に高かった。高密度のヒトシジマカの発生がウイルスの急速な拡散の原因であった。
217	デング熱	CDC/MMWR 2007; 56(31): 785-789	2005年7月にデング出血熱(DHF)症例1例がTexas州Brownsvilleの住民において報告された。2005年8月に隣接するメキシコTamaulipas州の保健当局はデング熱症例1251例が発生しているデング熱のアウトブレイクを報告し、内223例(17.8%)がDHFであった。臨床的および疫学的調査の結果、同地域でのデング熱アウトブレイクに伴うDHF症例の割合は、2000-2004年はデング熱症例541例中20例(3.7%)であり、増加していることが明らかとなった。
218	デング熱	Channelnewsasia.com 2007年7月30日	ベトナム当局および国营メディアは、今年になってから今までにデング熱により35例が死亡し、他に約33000例が感染したと発表した。2007年1月~6月のデング熱症例数は、2006年同時期より40.5%増加した。WHOは、今年アジアでは、約1500人が死亡した1998年のデング熱流行と同等の流行が起こる可能性があるという関心を示している。今年になってからインドネシアだけでデング熱により1000人以上が死亡している。
219	デング熱	http://www.allheadline.com/articles/7008061968 (2007年7月31日)	WHOはアジアにおけるデング熱の最悪のアウトブレイクに対して警告した。シンガポール、ベトナム、カンボジアおよび他の東南アジアの国々で何千人もの人々が感染したと報告している。カンボジアでは約25000人が感染し、300人近くの子供が死亡した。この数字は2005年の全症例数の約3倍に当たる。WHOの専門家はこのアウトブレイクが1998年に東南アジアで発生したアウトブレイクに匹敵するおそれがあると危惧している。1998年には約35万例が報告され、内1500例が死亡例であった。

No	感染症(PT)	出典	概要
220	デング熱	http://www.nst.com.my/Current_News/NST/Saturday/National/20070811090323/Article/pppull_index.html	マレーシアでは2007年にデング熱による死亡67例が記録され、2006年同時期の54例を上回った。2007年1月から8月4日までにデング熱症例が合計31279例(2006年の同期間では21117例)報告された。保健局は、アウトブレイクは環境を清潔に保ち、蚊の発生をなくさない限り、制圧されないであろうと言っている。
221	デング熱	news.gov.hk 2007年4月27日	香港のCentre for Health Protectionはデング熱の輸入症例1例を確認した。North Pointの59才女性で、2007年3月29日から4月15日にインドネシアへ旅行し、4月11日に発熱、頭痛、発疹を呈した。今年報告された6例目のデング熱輸入症例である。
222	デング熱	news.gov.hk 2007年8月11日	香港Centre for Health Protectionはデング熱症例2例(1例は輸入症例、もう1例は調査中)を確認した。1例は21才男性で2007年7月6日から8月4日にインドネシアへ旅行していた。もう1例は57才男性で、7月23日から8月1日に(中国)Macauを訪れており、感染源は調査中である。今年になってから、これら2症例の前に19例の輸入症例が報告されている。
223	デング熱	NIID/DSC/IASR 2007; 28(8): 215	台湾における2004年のデング熱報告数は1421例、2005年は1083例、2006年は2465例であった。2007年7月17日現在の患者数は568例(うち58例は輸入例)である。台湾でのデング熱流行は、6-12月初旬である。
224	デング熱	People's Daily Online 2007年5月4日	フィリピン保健局によると、同国では今年になってから今までにデング熱流行により54人が死亡し、1月から4月21日までにデング熱症例4858例が入院したとのことである。昨年同時期は5696例(内78例が死亡例)で、今年は14.7%減少した。
225	デング熱	ProMED-mail20061107.3198	2006年11月2日に、CDCは現役の軍人の初めてのデング熱症例(25才の男性)を確認し、これで2006年の台湾南部への旅行によるデング熱の6例目となった。血液検査の結果、デング熱ウイルス3型に感染している事が確定した。台湾ではこの夏以来デング熱症例は514例報告されている。
226	デング熱	ProMED-mail20061211.3493	2006年11月19日~25日に台湾においてデング熱92例が報告、このうち57例が検査確定(デング熱出血熱1例を含む)された。2006年は11月25日現在、2051例のデング熱が報告され、デング熱出血熱16例を含む、864例が確定され、2例が死亡した。確定症例数は昨年同時期に比べ234%増加した。
227	デング熱	ProMED-mail20070103.0030、ProMED-mail20070612.1912	State Secretary of Healthによると2006年にブラジルではデング熱出血熱患者は215名で、40名が死亡した。215例中44例は確定症例である。デング熱発生率はAnedes aegypti蚊の繁殖増加と関係する。発生傾向は増加しており、2007年最初の4ヶ月におけるデング熱出血熱患者は288名で、うち死亡例は38例である。
228	デング熱	ProMED-mail20070111.0136	香港で2007年最初のデング熱輸入症例が確認された。症例は31才のTuen Munの女性で、マレーシアに2006年12月24~31日に旅行し、2007年1月2日に発熱などの症例が発現した。1月6日に入院し、現在症状は安定している。
229	デング熱	ProMED-mail20070121.0284	香港Centre for Health Protectionは、27才女性のデング熱輸入症例について調査中である。この女性は2006年11月から2007年1月12日までインドネシアへ旅行しており、13日に発熱した。2007年に報告された2例目のデング熱輸入症例である。
230	デング熱	ProMED-mail20070225.0683	インドネシアWest JavaのIndramayuの北部海岸沿いの地域においてデング熱が拡大している。特にIndramayuおよびCirebonにおいて患者数が増加している。2007年2月21日に収集した報告によると、2007年2月のIndramayuにおけるデング熱患者数は138例となり、昨年同月の患者数60例のおよそ2倍に達した。Cirebonにおけるデング熱患者数は120例に到達し、病院ではベッドおよび病棟が不足している。

No	感染症(PT)	出典	概要
231	デング熱	ProMED-mail20070320.0972	2007年3月13日アルゼンチン保健省は、最近7日間のデング熱新規症例が38例のみであったことから、デング熱アウトブレイクは抑制されたと発表した。3週間前のアウトブレイク以来、156名の感染が確認されたが、致死的な出血性変異株の患者はいなかった。3月12日にはデング様症状のため588名が医学的支援を求めている。
232	デング熱	ProMED-mail20070320.0972	アルゼンチン保健省の報告によるとデング熱の確定症例は149例で、その内3例のみが国内Formosa地方での獲得症例である。最近、最も影響を受けている北部地域では症例数は25%増加した。更に疑い例として608例が検査中である。
233	デング熱	ProMED-mail20070326.1048	ブラジル、サンパウロ州で、2007年3月14日時点でデング熱症例数は5,326例であったが、3月18日には7,808例となった。その前週の症例数は約2,000例であった。フィリピンBukidnon地方におけるデング熱症例数が5年間で最高値に達した。2007年3月20日時点におけるRegional Epidemic Surveillance Unit (Resu)の記録によれば、Bukidnon地方においてデング熱症例47例が登録されている。2006年の同時期における症例数は12例であった。
234	デング熱	ProMED-mail20070401.1116	メキシコにおいてデング熱は急激に増加している。この流行は、気候の変化(長期の雨季)、移動(移民、旅行者)、都市化、蚊抑制キャンペーンの欠如などの因子の複合により拡大している。デング熱の発生率は、2001年以降600%の増加を示した。2007年1月および2月に1,589例のデング熱症例が登録された。これは2006年の同時期と比較して389%の増加となった。2001年の全国での確定症例数は1,718例であったが、2006年には死亡例を含む症例数が27,000例以上となった。
235	デング熱	ProMED-mail20070612.1912	中国Gaungzhouに拠点をおく調査会社の従業員で、3月に東南アジア諸国における調査のため中国を出発した23人のうち11例がデング熱に罹患し、さらに2例が旅行後、検査陽性であることが2007年6月7日に確認された。
236	デング熱	ProMED-mail20070706.2156	CDCは2007年6月25日にこの夏初めての、台湾におけるデング熱土着症例を報告した。患者はTainan郡Annan地区在住の21才男性で、出血型ではなく、既に退院した。
237	デング熱	ProMED-mail20070710.2207	2007年7月6日、保健当局は台湾における今年初めてのデング出血熱土着症例を確認した。Tainanの68才女性で、治療後安定した状態である。Tainanの同じ地区においてデング熱の土着症例14例がさらに報告された。
238	デング熱	ProMED-mail20070722.2350	ホンジュラスにおいて、今年(2007年)になってから、デング出血熱により少なくとも6例が死亡し、397例が発生している。2007年7月14日までに保健当局はデング出血熱297例、死亡例5例を確定し、古典的デング熱感染は6038例であった。2006年通年のデング出血熱による死亡例は6例、症例数は72例、古典的デング熱は7800例であった。
239	デング熱	ProMED-mail20070806.2555	フィリピンNorth SamarのPambujanではデング熱症例が2007年7月3日には1例であったが、7月25日には24例に急増した。カンボジアでは2007年に約25000例がデング熱に感染し、約300例の小児が死亡した。ブラジルSao Paulo州州都では最近35日間で確定デング熱症例が526例増加し、2007年7月25日までの登録症例数は2104例となった。
240	デング熱	ProMED-mail20070816.2675	インドネシアでは2007年のデング熱症例報告数は増加しており、2005年同時期の症例数45777例の2倍となった。プエルトリコでは2007年初頭以来、デング熱確定症例2343例が報告された。これは2006年同時期の2倍以上であり、1994年の流行以降最多である。
241	デング熱	ProMED-mail20070816.2675	香港Centre for Health Protectionはデング熱症例2例(1例は輸入症例、もう1例は調査中)を確認した。1例は21才男性で2007年7月6日から8月4日にインドネシアへ旅行していた。もう1例は57才男性で、7月23日から8月1日に中国Macauを訪れており、感染源は調査中である。今年になってから、これら2症例の前に19例の輸入症例が報告されている。

No	感染症(PT)	出典	概要
242	デング熱	ProMED-mail20070821.2726	フィリピンWestern Visayasではデング熱症例が2006年と比較して163%増加した(死亡29例を含む)。2007年1月1日-8月4日にデング熱2064例が記録された。前年は776例(死亡9例を含む)のみであった。Iloilo cityにおいて今年341例と死亡例6例が報告された。前年の同市の症例数は155例(死亡4例を含む)であった。
243	デング熱	ProMED-mail20070908.2964	台湾において、2007年8月9~15日に、デング熱が新たに89例報告された。このうち44例がTainan City's East Districtの退役軍人ホームの住人である。また、中国Guangdong省Zhuhaiにおいて、最近2週間で、デング熱症例計25例が確認された。
244	デング熱	ProMED-mail20071001.3237	2007年9月30日、中国保健当局はFujian省のPutian Cityでデング熱39例が確認されたことを発表した。今までに39例中26例は治癒し、その他の患者も安定した状態である。
245	デング熱	ProMED-mail20071001.3237	2007年9月30日、中国保健当局はFujian省Putian市で39例のデング熱症例が確認されたと発表した。ベトナムでは当局の発表によると、2007年のデング熱発生率は2006年の50%以上増加した。2007年9月24日時点で約68000名が感染し、内60名が死亡した。パキスタンでは2007年9月26日、Karachiで新たに22名のデング熱症例が報告された。ラテンアメリカとカリブ海諸国ではデング熱の最悪のアウトブレイクが起こっている。
246	デング熱	ProMED-mail20071008.3312	ホンジュラス保健当局によれば、デング出血熱1060例を含むデング熱症例22123例、死亡12例が報告された。2006年の報告数を上回っている。
247	デング熱	ProMED-mail20071017.3396	WHOの東南アジア地域事務局からデング熱に関する最新の調査結果が報告された。タイでは2007年になってから40000症例以上に達し、2006年の25%増加している。インドネシア全体では100000症例で、昨年の10%増である。ミャンマーにおけるデング熱症例は約12000例であり、2006年の報告数より3分の1増加している。
248	デング熱	ProMED-mail20071017.3396	台湾Tainan city当局は2007年10月12日に、デング熱症例数が現在511例になったと報告した。過去最悪のアウトブレイクである。
249	デング熱	ProMED-mail20071112.3670	コスタリカ保健当局は2007年1月以降デング出血熱症例288例(死亡7例)が報告され、デング出血熱症例の増加が懸念されると2007年11月9日に警告した。この症例数は2006年の報告数(72例)より300%増加している。古典的デング熱症例は合計24000例報告されている。
250	デング熱	ProMED-mail20071211.3989	インドネシア中部ジャワJombangでは、2007年12月8日現在、デング熱に罹患した537例が治療を受け、内16例が死亡した。この症例数は2006年と比較して2倍以上である。増加は2007年10月以降より顕著になった。
251	デング熱	ProMED-mail20071218.4074	2007年12月12日ブラジル保健省は、2007年の11月までのデング熱症例数は536519例で、内1275例はデング出血熱で、136例が死亡したと発表した。2006年に比べ、200000例増加した。今年はデング出血熱の致死率が増加し、10.7%となったが、これはブラジル最大のデング熱流行となった2002年の2倍である。また、今年の症例の44%が10万人未満の市で発生している。
252	デング熱	Radio Taiwan International http://english.rti.org.tw/Content/GetSingleNews.aspx?ContentID=39878	保健当局は2007年の台湾におけるデング出血熱の最初の土着症例(Tainanの68才女性)を確認した。治療後、患者は安定した状態である。Tainanの同じ地区においてデング熱の土着症例14例がさらに報告された。

No	感染症(PT)	出典	概要
253	デング熱	Taipei Times 2007年6月17日	台湾で、2007年6月初旬にベトナムへ旅行したChiayi郡の5人グループのうち4人がデング熱に感染していたことが確認された。Nantou郡では5月10日から6月7日の間ベトナムに行っていた6歳の少女が、帰国した日に発熱し、デング出血熱感染症例と考えられる。今年になってから今まで36例のデング熱輸入症例が報告されている。そのうち、22例はインドネシア、9例はベトナム、3例はタイからである。
254	デング熱	TODAYonline 2007年6月12日	2007年6月6日、シンガポールのHougang在住の63歳男性が急性デング熱感染により死亡した。今年の1月から5月の間に約2014の家庭で蚊の発生が見られたが、これは昨年同時期に比べ約80%増であった。2007年に報告されたデング熱感染は2472例で、2006年同時期と比較して89%増加している。
255	デング熱	Trans R Soc Trop Med Hyg 2007; 101: 738-739	日本人のデング熱患者(28歳、女性)の血漿サンプル中ではなく尿及び唾液中でデングウイルスを検出することに成功した。発症後7、14および25日目の血漿検体中で抗デングウイルス抗体は同定されたが、デングウイルス遺伝子は検出されなかった。発症後7、8および14日目の尿、ならびに7日目の唾液からデングウイルス1型遺伝子が検出された。現在の研究の結果は、尿及び唾液中のデングウイルス遺伝子の検出が有効な診断方法、特にウイルス性出血の子供の診断方法になりうることを示唆している。
256	デング熱	WWW.XINHUANET.COM 2007年6月7日	広州に拠点をおく調査会社の従業員で、3月に東南アジア諸国における調査のため中国を出発した23人のうち11例がデング熱に罹患し、さらに2例が旅行後、検査で陽性であることを、広州保健当局は2007年6月7日に確認した。11例は4月11日から5月14日に高熱、関節痛、嘔吐および発疹を呈し、外国でマラリアと診断され、治療を受けた者もいる。最後の症例も回復し、ここ3週間疑い例も報告されていないことから、デング熱が拡がる可能性はないとしている。
257	デング熱	YAHOO!ニュース 2007年10月14日	台湾南部でデング熱が流行している。台南市当局によると2007年10月13日までに市内で511人の感染者が確認された。隣接する高雄市でも2つの区で集団感染が発生しており、感染の広がりには過去最大規模である。行政と軍が協力して大規模な蚊の撲滅作戦を展開する方針である。
258	デング熱	カナダ Public Health Agency of Canada/Travel Health 2007年8月23日	WHO Regional Office for South-East Asiaは、インドネシア、ミャンマー、タイにおいてデング熱症例数は昨年と比較して増加していると報告した。2007年7月現在、インドネシアはデング熱症例102556例を報告し、2006年同時期と比較して17%増加、ミャンマーは9578例を報告し、10%増加、タイは27582例を報告し、6%増加した。アジアおよび太平洋の他の多くの国々でも今年はデング熱が増加している。
259	トリパノソーマ症	ABC Newsletter 2007年9月14日	AABBはCDCからAABBシャーガス病バイオビジランスネットワーク強化をするための資金を受けている。2007年9月13日現在、710名の反復反応性供血者がT. Cruziに対する抗体の追加RIPA試験を行った結果、196名がRIPA陽性、486名が無反応で、残りは結果がまだ出ていない。13の検査所がシャーガスネットワークにデータを報告し、18の検査所が同ネットワークにアクセスしている。
260	トリパノソーマ症	CDC/MMWR 2007; 56(7): 141-143	血液供血におけるTrypanosoma cruzi感染検出のための研究的アッセイを評価するために、アメリカ赤十字は2006年8月から2007年1月に米国の3つの血液収集センターで148,969の血液検体をスクリーニングする臨床試験を行った。その結果、32供血(4655例中約1例)がT. cruzi抗体陽性と確定された。シャーガス病に関する血液供血スクリーニングが広がるにつれ、保健当局はシャーガス病に関する診断、評価、管理に関する質問の増加を予期すべきである。
261	トリパノソーマ症	CMAJ 2007;177: 242	カナダ血液サービスは、2008年後半の血液製剤製造プロセス見直しの際に北緯49度以北では稀にしか見られないシャーガス病のスクリーニングを開始する。2種類のシャーガス病検査法がカナダ保健省の認可を待っている。供血血液の検査実施は、血小板製剤の製造を「バフィーコート」法に切替えてからとなる。メキシコや中南米では800万人~1,100万人がシャーガス病の保因者であり、毎年45,000人以上死亡している。カナダでは、これまでに輸血による感染が2例マニトバ州で発生した。
262	トリパノソーマ症	Reuters AlertNet 2007年4月13日	WHOによると、感染の数十年後に死亡する可能性もある寄生虫症、シャーガス病が、不適切な血液スクリーニングが原因でラテンアメリカから米国やヨーロッパに拡大している。WHOはバイエル社の支援を受けて、今や「地球規模の問題」となったシャーガス病根絶のための事業を拡大している。シャーガス病に感染している人は900万人にのぼると見られ、その多くはラテンアメリカの農村部の子どもである。最近では大規模な移民の影響で米国、スペインや他の欧州諸国に広がっている。
263	トリパノソーマ症	Transfusion 2007; 47: 540-544	神経芽細胞腫(ステージ4)を発症した3歳半の女児が複数の血液成分製剤投与を受けた後、Trypanosoma cruziによるシャーガス病と診断された。輸血された製剤の全供血者の血液を再検査したところ、初回供血者1名がT. cruzi抗体陽性であることが判明した。当該供血者は、ボリビア出身であり、17年前に米国に移住した。移住後は母国に帰国していない。本症例は、米国・カナダでの輸血によるシャーガス病感染の7例目の報告である。シャーガス病スクリーニング検査が必要であることを示している。

No	感染症(PT)	出典	概要
264	トリパノソーマ症	第48回 日本熱帯医学会大会 12C-02	日本におけるラテンアメリカ人の慢性シャーガス病キャリアーからの献血についての対策を検討した。カーミシ液(CPD液)を用いてT.Cruzi感染マウス血液を4°Cにて1-21日間保存処理を行ったところ、マウスへの感染性は無処理のものと同様であったが、病原性はかなり減弱することが示された。しかし、T.Cruzi虫体はほとんどの白血球除去フィルターを通過した。現在の保存血液提供システムはシャーガス病の輸血感染防止には不十分であり、対策の改善が必要である。
265	ニパウイルス	Emerg Infect Dis 2007; 13: 1031-1037	脳炎アウトブレイクの原因とリスク因子解明のため、2004年4-5月にバングラディッシュのFaridpur地区で調査が実施された。その結果、36例のニパウイルス患者が同定され、内75%が死亡例であった。ケースコントロール試験の結果、1名の患者との接触が最も高い感染リスクであることが示された。環境検体のRT-PCR試験により、病院の表面にニパウイルス汚染があることが明らかとなった。この調査により、ニパウイルスのヒト-ヒト伝播のエビデンスが示された。
266	パルボウイルス	J Gen Virol 2007; 88: 2162-2167	ヒト血漿プール中に新規のパルボウイルスPARV4とその変異株であるPARV5が存在することが最近示された。4株のPARV4と2株のPARV5のDNA配列を分析したところ、PARV5はPARV4と同様に2つのオープンリーディングフレームを持ち、PARV4とPARV5は92%近くのヌクレオチド相同性を示した。両者は密接な関係のあるジェノタイプであり、ジェノタイプ1と2(PRV5と呼ばれていたもの)から成るPARV4という1つのウイルス名を使用することを提案する。
267	パルボウイルス	Transfusion 2007; 47: 1756-1764	米国の血液センター7施設において2000-2003年の期間に採取した5020名の供血者由来の保存血漿検体を高感度PCRスクリーニング法を用いてパルボウイルスB19 DNAについて検査した。B19 DNA陽性率は0.88%であった。DNA陽性検体の全てがIgG陽性で、23%がIgM陽性であった。IgM血清陽性率はDNA値と相関した。
268	パルボウイルス	Transfusion 2007; 47: 1765-1774	B19ウイルスの不活性化機構を調べた。熱または低PHによるB19Vの不活性化はカプシド分解によるものではなく、感染性ビリオンがDNA枯渇カプシドへ変換することによって起こった。DNA枯渇カプシドは感染性はないが、標的細胞に接着することは可能であった。Parvoviridaeの他のウイルスとの比較試験の結果、被殻状態でのB19V DNAの著しい不安定性が明らかとなった。B19Vが不活化処理に抵抗性が低いのはこのためと考えられる。
269	パルボウイルス	Transfusion 2007; 47: 883-889	1993-1998年及び2001-2004年の間に製造された8つの第Ⅷ因子濃縮剤の284ロットについて、in-house NAT法によりパルボウイルスB19 DNAを測定し、抗B19 IgGも併せて測定した。その結果、B19 NAT非スクリーニング血漿から調製した製剤のB19 DNAの陽性率及びレベルは高かったが、製造方法が異なると、製品間で様々であった。血漿のB19 NATスクリーニングは、最終製品中のB19 DNAレベルを下げ、大半の例で検出限界以下とさせ、B19伝播のリスクを減少させた可能性がある。
270	パルボウイルス	Vox Sanguinis 2007; 93: 341-347	過去30~35年間に製造された第Ⅷ因子製剤中にヒトパルボウイルスが存在するかを調べた。175ロットのうち28ロットがPARV4シークエンスを含み、その内2ロットにジェノタイプ1型及び2型の両方が存在した。最大ウイルス量は10 ⁵ copies/mL以上であった。PARV4陽性の第Ⅷ因子製剤の大部分は1970年代及び1980年代に製造されていた。B19Vは175ロット中70ロットで陽性であった。
271	ハンタウイルス	Epidemiol Infect 2006; 134: 1333-1344	ドイツ南東部Lower Bavariaにおけるハンタウイルス感染の流行は2004年4月から始まった。血清学的、遺伝子的調査の結果、同地方のハタネズミ集団がPuumala virus (PUUV)の有効な宿主であることが明らかとなった。異なる4箇所から捕獲されたハタネズミに由来する部分的なPUUV-S セグメントのヌクレオチド配列は、多様性が低かった(3.1%)。このPUUV配列が2004-2005年のヒトハンタウイルス感染者数の増加の原因と考えられる新規のPUUVサブタイプの特徴である。
272	ヒトポリオーマウイルス感染	J Virol 2007; 81: 4130-4136	ヒトの気道からの検体をウイルススクリーニングし、KIポリオーマウイルスと暫定的に名付けた未知のポリオーマウイルスを同定した。このウイルスは、遺伝子のearly領域では、他の霊長類のポリオーマウイルスに系統遺伝学的に近縁であるが、late領域では、既知のポリオーマウイルスに対して相同性が少ない(アミノ酸同一性30%未満)。このウイルスは、PCRによって、鼻咽頭吸引物637例中6例(1%)と便検体192例中1例(0.5%)で検出されたが、尿及び血液検体では検出されなかった。
273	ヒトポリオーマウイルス感染	PLoS Pathogens 2007; 3: 595-604	急性呼吸器感染症に罹った患者からの呼吸分泌物中に存在する新規のポリオーマウイルスを同定し、WUウイルスと名付けた。WUウイルス遺伝子は5229bpで、Polyomaviridaeファミリーの特徴を持つ。系統遺伝学的分析から、このWUウイルスは、既知の全てのポリオーマウイルスとは異なっていることが明白となった。オーストラリア及び米国の急性呼吸器感染症患者2135例中43例からWUウイルスが検出され、地理的に広く分布していることが示唆された。
274	ブドウ球菌感染	日本組織移植学会雑誌 第6回日本組織移植学会総会・学術集会 2007年8月4日	肺動脈ホモグラフトの移植を受けた2歳男児が、術後6日に39°Cの熱発を認め、CRP、WBCも共に上昇した。術中に提供されたホモグラフト凍解片から多剤耐性MRSAが報告された。移植された肺動脈弁は凍結前の培養検査では抗生剤処理前・処理後共に陰性であったが、同ドナーの抗生剤処理前検体よりMRSAが検出されていた。MRSAまたは真菌が1検体からでも検出された場合は、同ドナーから摘出された組織は全て移植不可とすることとした。

No	感染症(PT)	出典	概要
275	ブドウ球菌感染	Ann Clin Microbiol Antimicrob 2006; 5(26): 1-4	オランダで養豚農家の家族3名、従業員3名および検査したブタ10頭中8頭がMRSA陽性であった。分離されたMRSAはMLST ST398であり、以前フランスのブタおよび養豚農家から分離されているものと同じ型であった。ヒトとブタ間のMRSA伝播が明らかになったが、地域的な問題が新規のMRSA源かを評価するための研究が必要である。
276	ブドウ球菌感染	Ned Tijdschr Geneesk 2006; 150: 2442-2447	腎移植を受けた63歳の女性がメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)による心内膜炎で入院した。分離された菌は、最近オランダのブタから高い割合で分離されたMRSA株であるシークエンス型398であった。この論文はブタMRSAによる重篤な感染についての最初の報告である。オランダ感染防止作業部会はこの株の拡大を防ぐため、リスク集団(養豚業者、食肉処理場従業員、獣医)が入院する場合にはMRSA保菌者でないことが確定するまでは隔離すべきであると、ガイドラインの修正を行った。
277	ブドウ球菌感染	Vet Microbiol 2007; 122: 384-386	後ろ向き研究により、デンマークのブタでメチシリン耐性および感受性のStaphylococcus aureus ST398が初めて検出された。検査した100頭の内10頭で鼻腔にST398が検出され、3つの養豚場の内2つが陽性であった。10のST398分離株の内9株がspaタイプt034、1株がt1793で、ペニシリンに加え、エリスロマイシン、クリンダマイシンおよびテトラサイクリンに抵抗性であった。ヨーロッパのブタでこの新しい人畜共通細菌が急速に拡大していることが示唆された。
278	ブルセラ症	ProMED-mail20070522.1632	米国Montanaの雌牛7頭が検査でブルセラ症陽性であった。もし近くの別の群れで少なくとも2頭の雌牛が来週に検査陽性となると、Montanaはブルセラ症-freeの地位を喪失することになる。
279	ブルセラ症	ProMED-mail20070806.2553	香港 Tsuen Wan の56才男性と54才の妻がブルセラ症に感染したことをCenter for Health Protectionが確認した。この男性は2007年5月に発症し、2度入院したが、現在は安定した状態である。彼の妻は同様の症状で2007年7月13日に入院し、18日に退院した。2人は2007年4月にGuangzhouに旅行した。ブルセラ症は2006年に計3例および2005年に1例報告されている。
280	ブルセラ症	J Travel Med 2007; 14: 343-345	64歳の日本人男性が6週間続く発熱で1998年6月2日に都内の病院に入院した。入院時の血液培養からグラム陰性桿菌が検出され、Brucella melitensis 2型と同定された。患者は同年3月にイラクに滞在し、ヒンジのチーズを摂取したことが明らかとなった。患者の妻(60歳)が同年5月31日から発症し、Brucella melitensisが血液と関節液の培養で検出された。イラクの帰国者からその妻へ、ブルセラ症が性感染した可能性がある。
281	ペスト	CDC/MMWR 2006; 55(34): 940-943	2006年に、米国4州(New Mexico, Colorado, California, Texas)の住民においてペスト症例が13例報告されている。5例は敗血症性ペスト、残り8例は腺ペストであった。2例の患者は2次性肺ペストを呈した。1994年以降米国において1年で報告された最も多い症例数である。
282	ペスト	The UB Post-Leading English News 2007年8月8日	モンゴルKhovsgol aimagで14才の男児が2007年8月2日に死亡し、その後腺ペスト感染であると確認されたことを受け、Tsetserlegの当局はこの男児と接触していた79人を検疫下においた。Yersinia pestisは男児が捕まえたマーモット由来であると考えられている。男児がマーモットの皮膚を取り除く際、指が傷ついていた。マーモットの死体から腺ペスト菌が検出された。
283	ペスト	Wkly Epidemiol Rec 2006; 81: 397-398	2006年10月13日にWHOはコンゴ共和国の2つの保健地区における肺ペストのアウトブレイク疑いに関する報告書を受け取った。7月31日から10月8日の間に死亡42例を含む626例の疑い例が報告された。迅速診断試験による予備的結果では8検体中3例が陽性であった。更なる確定検査が行われている。
284	ボツリヌス中毒	Eurosurveillance 2006; 11(12): E061214	2006年7月3日、オーストリア北部の公衆衛生局は入院患者4名がボツリヌス中毒症の可能性があると報告を地方病院から受け、5番目の患者も他の病院に入院したため、アウトブレイクに関する調査を開始した。調査の結果、6月25日に行われたバーベキューパーティーと関連があった。全員が自家屠殺の豚肉を食べていた。マウス中和試験によって一部の患者では毒素の存在が確認されたが、患者の大便および冷凍保存されていた豚肉からはClostridium botulinumは検出できなかった。
285	マラリア	ABC Newsletter 2007年7月6日	FDAは、初めて認証された米国のマラリア用迅速テスト、Binax NOWマラリア検査の使用を許可した。同検査は、非常に迅速で使用が簡便で、全血検体をディップスティックに2、3滴つけて15分後には結果が得られる。検査結果の確定には標準的顕微鏡検査法を用いなければならない。米国外のマラリア流行地域で行った多施設試験において、標準的顕微鏡診断と比較して当該検査の正確度は95%であった。

No	感染症(PT)	出典	概要
286	マラリア	CDC/MMWR 56(SS06); 23-38 2007年6月8日	米国CDCは2005年に死亡例7例を含む1528例のマラリアの発症を確認した。2004年より15.4%の増加である。米国国内で感染した2例は先天性感染であり、両例とも三日熱マラリア感染であった。死亡例は全て熱帯熱マラリアであった。
287	マラリア	HPA/Health Protection Report 1(43) 2007年10月26日	2007年3月9日、HPA Malaria Reference Laboratoryは、2006年12月29日-2007年3月14日に診断された、インドGoaを訪問した英国の旅行者における熱帯熱マラリア原虫によるマラリア症例5例について報告した。熱帯熱マラリアの増加はGoaの住民で確認され、2007年の上半期に788例報告された。前年同時期においては240例であった。英国マラリア予防委員会は旅行会社がGoaへの旅行者にマラリアの化学的予防を勧めるよう2007年3月にマラリアガイドラインを更新した。
288	マラリア	ProMED-mail20070501.1414	ジャマイカ保健省によると、2007年4月の1ヶ月間に新規のマラリア症例11例が報告された。内2例は、メスのハマダラカが媒介する熱帯熱マラリア原虫によるものであった。また、2006年12月に最初の症例が報告されて以降、輸入感染症例が7例あった。2007年4月1~21日の間に実施された884検体の検査の結果、血液検体陽性率は0.7~1.8%で減少を続けている。最近、Anopheles albimanus蚊がマラチオン殺虫剤に耐性を示し始めたことが確認されたため、感染拡大を防ぐために代替りの殺虫剤を探している。
289	マラリア	ProMED-mail20070716.2287	2007年7月16日、インドGoa州の保健当局は熱帯マラリアの増加に対し懸念を表明した。同州では2007年1-6月の間に熱帯マラリア症例が約788例報告された。2006年は240例であった。同州の2007年1-6月のマラリア症例は、2006年の症例数が1552例であったのに対し、おおよそ2883例であった。
290	マラリア	Vox Sanguinis 2007; 93(Suppl.1): P239	韓国における輸血によるマラリア感染の発生について調査した。マラリア診断前6ヶ月間以内に供血を行った供血者は、2005年5月~2006年8月の三日熱マラリア患者2056名中46名(2.2%)であった。46名の保管血液51検体についてPCRを実施し、PCR陽性の血液成分を輸血された全受血者を調査したところ、1名の受血者に輸血によるマラリア伝播が確認された。PCRに基づくマラリア選及調査は、輸血によるマラリア伝播の特定に役立つ。
291	リケッチア症	Jpn J Infect Dis 2007; 60: 241-243	血清学的、微生物学的に確定された日本紅斑熱の初めての死亡症例を報告する。淡路島在住の77歳男性で、2005年9月2日に食欲低下を呈し、翌日、下腿に皮疹が出現、4日目に38.7°Cの高熱、歩行障害、構音障害が出現、肝機能障害が急速に進行し、DIC、消化管出血により8日目に死亡した。右肩にダニ刺し口があった。血液よりDNAを抽出し、PCRを実施したところ、塩基配列はR. japonicaと100%一致した。日本紅斑熱は増加傾向にあり、注意が必要である。
292	リケッチア症	OIE/Q fever, Argentina 2007年9月17日	アルゼンチンにおけるQ熱-Follow-up report No. 2(最終報告): 開始日-2005年11月10日、アウトブレイクの確定日-2005年11月10日、報告日-2007年9月14日、前回の発生日-1998年、病因-Coxiella burnetii、本報告における新たなアウトブレイクはない、感染源-不明もしくは結論に到達していない。
293	リケッチア症	ProMED-mail20070809.2592	2007年5月29日にオランダ南部のNoord-Brabant地方の開業医から肺炎症例の異常な増加が保健所に警告され、詳細な診断の結果、大部分の患者はCoxiella burnetii感染に血清学的に陽性であることが明らかとなった。また、2007年1-4月に同地方で6例のQ熱症例が報告された。オランダ全体では2007年1月1日から8月2日までにQ熱の確定および疑い症例は63例報告されている。
294	リケッチア症	朝鮮日報 2007年8月21日	韓国では最近ツツガムシ病の患者が急増している。2007年8月20日、疾病管理本部の発表によると、2002年に1,919人だったツツガムシ病の患者数が、04年は4,698人、06年には6,420人に増加したことが分かった。1993年末に法定伝染病に指定されて以来、患者数は実に25倍以上増加した。ツツガムシ病は、主に9月以降、ツツガムシ菌に感染したツツガムシ(ダニの一種)の幼虫に刺されることにより感染する。10日間程度の潜伏期を経ると、突然高熱が発生し、目の充血、頭痛、筋肉痛、発疹などの症状が現れる。
295	リンパ性脈絡髄膜炎	N Engl J Med 2008; 358 10.1056/NEJMoa073785	オーストラリアで一人のドナーから臓器移植を受けた3例が移植後4-6週後に死亡した。他のいかなる方法でも原因不明であったが、2例のレシピエントの移植肝および腎から得られたRNAを偏りのない迅速シーケンシングで解析することにより、リンパ性脈絡髄膜炎に関係する新規のアレナウイルスが原因であることが明らかとなった。レシピエントの腎、肝、血液および脳脊髄液からこのウイルスが検出され、また免疫組織学的および血清学的に確認された。この方法は病原体発見の強力な手段である。
296	レプトスピラ症	ProMED-mail20070429.1395	アルゼンチンSanta Fe地方で2007年4月に同地方を襲った嵐の後にレプトスピラ症のアウトブレイクが起こった。Rosarioでは疑い例が39例あり、内3例が確定された。Santa Fe地方では約400例に達した。首都ではこの病気の症状の5例が死亡した。Rosarioでの疑い例39例は最も洪水による被害を受けた地域で発生しており、当局は洪水被害を受けた地方全域に警告を発した。